

P-161

院内緊急対応における記録のトレーニング

諏訪赤十字病院 看護科

○小山 泰仙、矢部 茂美

【はじめに】 2008年3月から2010年7月に提出のあった「院内緊急コール報告書」18件を検証した結果、ほぼ全事例において、心肺蘇生の実施について検証できるだけの記録が残されていない事が明確になった。急変時刻（目撃がない場合は発見時刻）、心停止確認時刻、モニター装着時刻などの記載がない事や、時間の経過が不明確で有効な心肺蘇生が実施されたかどうかを振り返る事ができない現状があった。このことから、院内緊急対応における救命の連鎖が確実に実施されたか記録において明確にする必要があることがわかった。急変時の記録に関しては現場で行なう場合のみで、シミュレーションなどのトレーニングが行なわれていないのが現状である。また、ICLSコースなどでも記録における指導は十分に行われていない。そのため、急変時に何をどのように記載すべきかトレーニングの実施が必要であると考え。シミュレーションを交えた記録のトレーニングにより、看護師が院内緊急対応における記録の方法を明確にでき実施できる事を目指す。更にこれを、院内緊急対応における記録改善の手がかりとする。

【目的】 1. シミュレーションを交えた記録のトレーニングを実施することで、対象者が院内緊急対応における記録の方法を明確にすることができ実施できる。2. 院内緊急対応における記録改善のための課題を明らかにする。

【方法】 1. 院内緊急対応における記録のシミュレーションを実施し、そこで得られた対象者の記録結果を検証する。2. 院内統一の「急変時経過記録表」と「院内心肺蘇生報告書」を使用する。

【対象】 院内緊急対応における記録のシミュレーションに参加した全ての看護師。

【期間】 2012年7月から9月にシミュレーション実施。

P-163

ELNEC-J教育プログラムを使用した看護師教育「緩和ケア研修」の取り組み

諏訪赤十字病院 看護部

○佐々木智美、折井こずえ

諏訪赤十字病院では、2010年度よりキャリア開発委員会が主催となり看護師の専門性教育の一環とした看護ケア研修を実施している。看護ケア研修には「緩和ケア研修」「スキニングケア研修」「がん化学療法講座」などあり、緩和ケア研修は2012年度で3回の開催となる。第1回、2回とも研修参加者のニーズを基本として研修内容を企画し、就業後の時間を使用して60分から90分の講義全5回を1シリーズとして実施してきた。しかし、看護ケア研修の目的である看護師の専門性を高めるために、講義の内容が限られた状況では目的が達成されないと考えられ、がん看護に偏っていた研修内容から、エンド・オブ・ライフ・ケアに焦点を当てたものに変更した。そのためにEnd-of-Life Nursing Education Consortium-Japan(ELNEC-J)教育プログラムを使用した研修を行うこととした。それに合わせて2.5日集中の研修を行うこととした。ELNEC-J教育プログラムは2000年米国看護大学協会とカリフォルニア州の医療施設のあるCity of Hopeが作成したELNECをもとに、日本緩和医療学会が開発したものである。10のモジュールからなりたっており、がん看護に偏る傾向にある緩和ケアとは異なり、倫理問題や高齢者のケア、文化的背景、臨死期のケアなど多岐にわたった内容となっている。講義の形式はティーチングだけでなくロールプレイや事例検討などであり、研修者が明日から活かせるようにされたプログラムである。このプログラムを使用して実施した緩和ケア研修の研修者の満足度や理解度、今後への課題を明らかにしたい。

P-162

連携構築に向けたCCM（Cancer Care Manual）の活動から見えてきたもの

姫路赤十字病院 総合相談支援課

○田中 弘子、北山さゆり、小原由紀子、中村 孝子、安川 尚子、三木 幸代

【はじめに】 医療ニーズが高まり、期待される医療サービスが多様化している中、看護師に期待される役割も多様化している。外来では辛いICを受けた患者に対応しきれないことや、支援が必要な患者を見出せないことがある。総合相談支援課は、患者・家族に対して正確な情報に基づいて支援を行うことを期待されながら、がん患者の情報の把握が難しい現状があった。そこで、外来・相談室がお互いに協働できるシステムができれば、より患者サービスにつながれると考え、がん患者のための連携システム（CCM）構築の取り組みを開始した。今回、外来看護師と相談員が連携システムを構築する過程から見えてきた各職種の役割を報告する。

【目的】 外来看護師と相談員が連携システムを構築する過程から見えてきた役割を明らかにする。

【方法】 「外来看護師と相談員の役割分担表」と「がん患者スクリーニング基準（外来用）」のツールを作成し、外来看護師と共に1事例に適応した。その後事例を振り返り、CCMの評価、及び看護師と相談員の役割について考察した。

【結果・考察】 CCMを実践することで、各職種が役割を果たしながら連携することができた。患者と家族にとっては医療への満足感の向上、医療者にとってはやりがいの向上につながったと考える。そして外来看護師の役割は、患者と家族を総合的、長期的に医療と生活のプロセスを管理する「療養プロセスにおける継続した支援者」、相談員の役割は、専門性の高い相談支援の提供によりシームレスな医療を実現する「療養プロセスにおける必要時の支援者」であると結論づけた。

P-164

エンゼルケアマニュアルの改正と職員教育

福井赤十字病院 看護科

○渡邊加余子

【はじめに】 A病院では、H22年に、遺族からの意見と葬儀社へのアンケート調査をもとにエンゼルケアマニュアル（以後マニュアルとする）の改正を行い、以後、ケアの質の向上を目的に、毎年勉強会を実施している。毎年、勉強会の参加率は上昇しているが、今年度はさらに参加率を上げるために、動画を含めたプレゼンテーション方法で勉強会に取り組んだのでその結果を報告する。

【方法】 マニュアルの改正：H22年葬儀社にアンケート調査を依頼し、集計結果より問題点を抽出し、現マニュアルへと改正した。1年目：緩和ケアリンクナース委員会主催の勉強会において、看護職員を対象に従来のマニュアルと改正後のマニュアルの変更点を列記して勉強会を実施した。2年目：同じ主催の勉強会において、「1、ご遺体に関する基礎知識」「2、動画（独自で作成）で見る基礎技術（4例）」の2つのテーマで勉強会を実施した。3年目：動画をさらに充実（6例）させ、まずは各部署代表のリンクナース委員に勉強会を行い、その委員が各部署において全員対象に勉強会を実施した。

【結果】 1年目の参加率は11%、2年目の参加率は37%、3年目の参加率は70%と上昇した。

【考察】 改正したマニュアルの職員教育において、ケアの質を向上させるためには、勉強会に一人でも多く参加してもらえよう、構成を十分に検討する必要がある。今回、実際に現場で使用している器材を利用してエンゼルケアを実施する場面を、DVDに収録し勉強会を行った。紙面だけの説明よりも、動画を用いた視覚教材を利用して勉強会を行う方が、勉強会参加率の増加につながることが明らかになった。今後も動画を利用した勉強会を続け、さらにケアの質の向上へとつなげたいと考える。